

「キャッシュレス社会の安全・安心の確保に関する検討会」 報告書概要

背景・課題

- 社会のキャッシュレス化が進展する一方で、クレジットカードの不正利用やインターネットバンキングに係る不正送金等、関連する被害も増加し続けている。
- 犯罪手口の高度化・巧妙化やサービスの多様化を踏まえると、既に実施している注意喚起や被害防止対策に加え、サービス利用者が意識しなくとも被害に遭わない環境整備や警察における対処能力向上を推進する必要がある。

今後の方策

被害に遭わないための環境整備

- 利用者に直接届く注意喚起の実施

・ サービスの実態や特徴を踏まえた注意喚起の実施 等

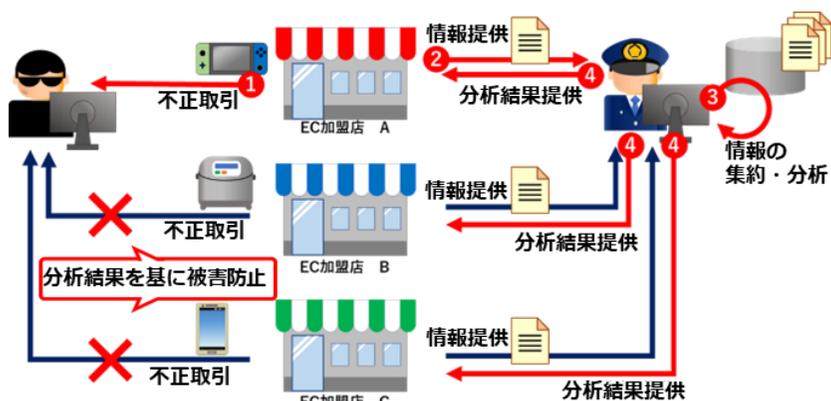
- フィッシングサイト等にアクセスさせないための方策

・ 事業者等におけるDMARC※の導入促進等
・ フィッシングサイトのテイクダウン促進
・ 次世代認証技術（パスキー）の普及促進 等

※ メールを送信元ドメインの偽装（なりすまし）を防ぐ技術

- ID・PWを窃取された場合でも被害に遭わないための方策

・ EC加盟店等との情報連携の強化

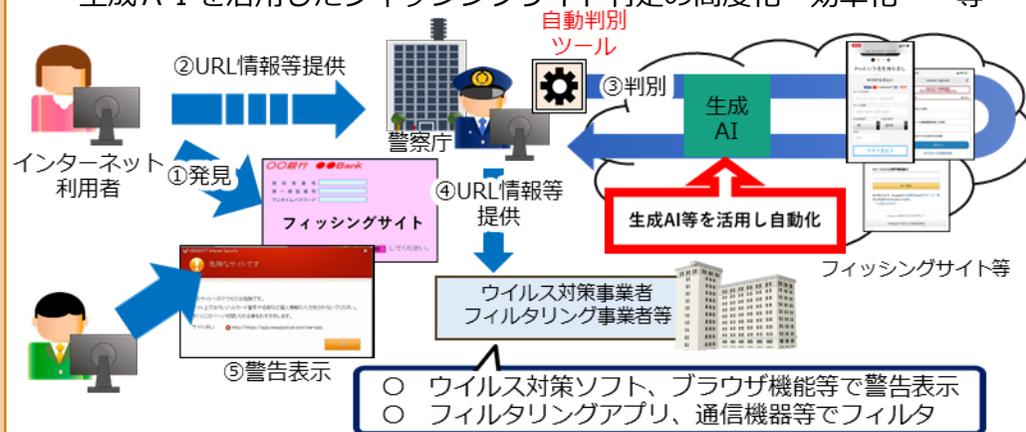


・ 暗号資産交換業者への不正送金の防止
・ コード決済に関する被害防止 等

警察における対処能力の向上

- 先端技術の活用等によるフィッシング対策の高度化・効率化

・ フィッシングサイトの特性を踏まえた対策の高度化
・ 生成AIを活用したフィッシングサイト判定の高度化・効率化 等



- 被害企業等との情報共有による捜査の推進

・ 不正取引に関する情報の集約・分析及び捜査の推進 等

- 国内外の関係機関等との連携強化

・ トラストド・フラグラー制度の活用
・ フィッシング対策の高度化・効率化に関する連携強化 等

- 警察の捜査により得られた情報の被害防止対策への活用推進

・ 警察の捜査により得られたクレジットカード情報の活用推進 等